

QI ニュース Vol.1

平成 25 年 6 月 20 日発行
発行責任者 川原 順子

QI ニュース創刊です！！



みなさん、こんにちは。

Q I ニュース第一号です。

Q I の名前は、Quality Improvement (質の向上)、Quality Indicator (質の指標) の頭文字からとりました。
平成 24 年度秋から医療の質向上委員会が開かれました。

この委員会の仕事は大きく二つあります。

一つは、いくつかの臨床指標 QI (Quality Indicator) を決めて、全国的にみてどのレベルにあるのか、指標は改善しているのかまたは悪化しているのか、評価し改善していくことです。

二つ目は、医療の質を向上させるための知識と手法を職員が身につけるための手助けをすることです。

●医療の質

皆さんはどのようにイメージされますか？

私たち医療人が日々行っている業務は、患者さんの病気を見つけて治す、症状を緩和する、健康になるように生活習慣を指導することです。



私たちは、無意識か意識的にか、「質が高い」という言葉をよく使っています。
当院のホームページには、質の高い看護を提供する、質の高い医療を提供する、等、「質の高い〇〇」という言葉が並んでいます。

では、質の高い医療とはどういうものでしょうか。

私の職業は内科医です。医学に関する本や論文を読み、問診・診察・検査・治療などの臨床経験を積んで、医師として成長することが、質の高い医療を提供することにつながると考えていました。これは決して間違っていないでしょう。

しかし医療は医師だけでは完結しません。入院すると、食事、睡眠、排泄、採血検査、画像検査、内服、点滴、生活指導など、患者さんが元気になって自宅に帰るまで、本当にたくさんの職員が関わっています。これらのプロセスで不備があると、患者さんに悪影響が及びます。たとえ実害が患者さんに及ばないまでも、次のプロセスで誰かが後始末をすることになります。患者さんへの悪影響の最たるものは医療事故です。一連の業務の流れに不備、無理や無駄があると、私たちが意図している医療の結果（アウトカム）が得られにくくなったり、得られてもコストや時間がかかったりします。

かつて医療は医療側が施すものという考えが主流でしたが、現在では患者さんは自分が受ける医療について非常に興味を持っています。私たち医療側と一緒に病気と戦おうとされています。医療は「存在するだけでよい、あるだけでました」というレベルから、学校や道路、電気、下水道のように、私たちの生活を支える重要なシステムであり、質が高くかつ社会に対して開かれているべきという風潮になってきました。

QI (Quality Indicator) 臨床指標は、医療のレベルの一部分を私たち自身に教えてくれます。これら情報を顧客である患者さんにもお示ししようという姿勢が近年広まっています。

よい車、悪い車があるように、医療の質にも良い悪いがあることが、医療の外の領域から指摘されるようになりました。よい車を作るために工場での行程を見直して作業内容を改善する。質の向上のために業界では、様々な手法を発達させてきました。資源の無い日本は、もの作りで世界と競争する必要があり、まず製造業で改善の手法、Quality Control が進歩し、それがサービス業にも広がりました。これらの知識や手法の進歩を医療界も取り入れるべきであるとする意見が、医療のなかの世界からも医療の外からもわき上がってきています。

このニュースでは、病院の各部署での改善の取り組みの紹介、医療の質に関する用語、手法の説明をしていきます。発行元は、医療の質向上委員会の教育グループです。身近なところから改善を進めていきたいと考えています。よろしくお願ひ致します。

(医療の質向上委員長 川原 順子)

* 次回は「Q I って何??」の疑問にお答えします!!



目で見る医療の質シリーズ Vol.1

私達がよく耳にする「質が高い」って一体どういうこと??

ISO (国際標準化機構) では、品質 Quality:

- ・本来持っている特性の集まりが、要求事項を満たす程度
- ・目的あるいは期待される結果の実現を保証することに関わる側面。その良し悪しは、それを実際に実現できる程度によって測られる

と定義づけています。

私達が働く医療現場にその良し悪しをあてはめると……

